

特集

スピリチュアルケアとは何か？ 看護師が臨床で実践できることとは

人は誰も身体的、社会的、心理・精神的な健康を求めています。スピリチュアリティはそれらの奥に潜在しています。ですから、疾患での苦しみや生きる目的に大きな苦悩に遭遇したときに、その人のスピリチュアリティも苦痛を味わい、スピリチュアルなニーズや欲求を訴えるのです。

今回の特集では、看護師にとってのスピリチュアルケアとは何か、またそれはどのように実行可能であるかを述べていただきます。患者さんの身体的健康を守ることがますます考えられる現代医療において、スピリチュアルな面のケアの担い手として最初に期待されるのは、心理・精神的サポートにあたる看護師だとは思いませんか？

スピリチュアルケアに取り組むにあたり必要なこと 大下大圓
スピリチュアルケアは専門家でなくてはできないのか？ 内藤いづみ
看護師としてスピリチュアルケアに取り組む

緩和ケア病棟に勤務すること 北端恵子
家族(娘)のがんという体験を通して 太島英子
スピリチュアルケアワーカー講習に携わって 水野敏子

招待席

がん治療患者とパートナーへの 性カウンセリングを行なう 高橋都さん

連載

A-LSO! 病床からの誘惑・7——甲谷匡賛・久保田テツ
世界の感受の只中で・7——天田城介
看護師のためのセルフコーチング
自分の人生をコントロールするために・8——鱸伸子・柳澤厚生
患者・看護師双方のためのアクティビティケア・8——六角僚子
見えないものが見えてくる「臨床感染症」とのつきあい方・8——今村顕史
HIV/AIDS ケア 再考・8——若林チヒロ
Pipo さんの疾走ダイアリー・8——Pipo さん
アフリカが紡ぐ命の物語・11——井上冬彦
悩めることも才能だ！ 宮子あずさのお悩み外来・23——宮子あずさ

看護学雑誌 第71巻第10号 2007年10月1日発行(毎月1回発行)

発行/株式会社医学書院 代表者 金原優

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2007, Printed in Japan
1部定価 1,260円(本体1,200円+税5%) 年々ぎめ予約購読料 13,200円(税込、送料弊社負担)

・定期購読のお申し込み先/(株)医学書院販売部 TEL 03-3817-5659

・第69巻以前のバックナンバーのご注文先/(株)東亜ブック TEL 03-3985-4701

「看護学雑誌」編集室(担当/鳥居・大野・小田嶋) TEL 03-3817-5772

E-mail kangaku@igaku-shoin.co.jp 医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp>

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCLS <(株)日本著作出版権管理システム委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(TEL 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。本誌掲載論文・記事のタイトル頁最下段に記された「0386-9830/07/¥250/論文/JCLS」は、1論文1回複写につき250円を要することを明示したものです。これは表示のない論文等にも適用されます。JCLSへのご連絡の際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご掲示くださるようお願いいたします。

編集後記

●世界的舞踏家の鳥崎徹さんのお話。「お子さんを預けて1週間ほどすると『先生、うちの子、才能ありますか？ ないんならすぐに辞めさせます』と言ってくるお母さんがいる。人間の才能とか能力というものについて、何か根本的な誤解をされている人が増えている気がします」/日本の社会は昔から「技術」というものに高い価値を見出してきました。武術しかり、工芸しかり。本邦の医師・看護師の技能が国際的に高く評価されてきたのも、そうした「修練によって身体化された技術」を高く評価する文化的背景があったのでしょう/才能、教育、努力……技術を身につけるために必要な要素は多々ありますが、そのなかでも「自発性」の重要性を強調する招待席・岩城正夫先生のお話には含蓄がありました。【鳥居】

●映画『荒野の七人』のなかの1シーン。ガンマン、ベルナルドに憧れる村の子どもたちが、彼と比べて親をバカにします。ベルナルドは激怒して言います、「父さんたちこそ偉いんだ。来る日も来る日もお前たちのために働き続ける。そんな生活は俺にはできない。俺にはそんな覚悟はない。だから、俺は親にはなれない」と。

今回の『お悩み外来』の相談は、単純に言うところ、「親の覚悟」の問題ではないかと私は思います。“人間”を育てるというとても難しい「覚悟」をした親であれば、子どもに障害があらうとならうと同じことのはずです。なぜなら、先天的なものがなかったとしても、後天的に得てしまう可能性は、自分がそうであるのと同じくらい常にあるからです。そのような親御さんたちを、私は尊敬します。ベルナルドのように、私にはそんな覚悟はないからです。【大野】

●新ビルに引っ越してきて3か月が過ぎました。看護出版部は8階にあるのですが、ふと思い立って、エレベーターを使わずに階段を一段飛ばしで上っていくことを自分に課すことにしました。上りでは6階からが胸突き八丁で、8階に「登頂」してからしばらく荒い息は続くものの、ちょっとした達成感もあり、適度なストレス解消になっている気がします。LOHAS(Lifestyles Of Health And Sustainability:健康と持続可能性を重視するライフスタイル)的な考え方では、オフィス環境も重要なテーマであり、そういう意味では当社の社員は恵まれた環境にあります。しかし、労働環境がよくなったために(!?),いつまでも会社に残ってしまうという問題はどうか考えたらよいのでしょうか。(淋しい日本人より)【林田】